なきごえ

1982

2

大　阪　市
天王寺動物園協会

動物と私

金　森　嘉　輝

もの心がついた頃から、いきものが好きであった。彼等に接しているとき、猫かわいがりではなく、生態観察も同時にしているクールな自分に気づくことがある。すばらしい能力を見つけては、頭がさがる思いである。今まで何種もの動物とつきあってきたが、そのうち二種について述べてみたい。

教職について、最初の受け持ちクラスの副委員長からフクロウをもらった。調べると、5月頃に南から渡ってくるもっとも小型のアオバズクである。違法とは知りながら、籠に大きなふろしきで隠して電車でつれて帰った。聞いていたとおり、肉やハムをやっても食べようとしない。生きた昆虫を夜に捕食すると本に載っていたので、ゴキブリやセミをやってみた。夜行性の鳥だけあって、大きな目をあけ独特なポーズで頭をまわすだけで、いっこうに食べようとしない。数日たっても、水を飲んだ様子もふんもしていない。いよいよ心配になり、部屋の中で放し飼いにしてみた。夜間、はいまわっているゴキブリなら、自分でとびかかりたべるだろうと考えた。これがよかったのか、以後ふんがあちこちに見られるようになった。私の方に権力のあった新婚時代にできたと今思うとなつかしい。寛大な二人にもがまんのできない事が起った。通勤電車の中、教壇の上、安眠中、時と場所をえらばずやってくる猛烈なかゆさ。ご存知のように、鳥には羽虫がつきものである。腋の下、股間など人前ではおおっぴらにかけない部分をこの虫は攻撃する。これには音(ね)をあげてしまった。特に、女性である妻の事を考え、この鳥を放すことにした。近くの四条畷神社で逃がしてやると、しばらく長い翼で、音もたてず樹間をとびまわり、やがて視界から消えた。そろそろ南への渡りの季節でもあったので、心の中で無事を祈った。毎年青葉の頃になると、アオバズクの声が、ホーホーと、神社の方から聞えてくる。ああ、今年も海を渡ってやってきたのだなと、自分かってに思っている。あのハムシヤロウかどうか、個体識別できないものかと思うが、しない方がいいのかも知れない。もし、違った個体だとがっかりすることだろう。

次にハムスターについてである。我が長男も動物好きで、ハトやモルモットなどを飼っていた頃である。ハムスターが死んだというので、畑に埋めてやる時の事である。つめたく、丸く硬直した遺体を、悲しい思いでポケットからだし、穴にそっと置き、まさに土をかけようとした瞬間、わずかに動いたように見えた。今一度、穴からとりあげ、両手の中でしげしげと見てあっと驚いた。かすかではあるが腹部が動き、呼吸を始めているではないか。さらに手で暖めつづけていると、まぶたが動きのそのそ這いだしたのである。もし、土をかける直前のわずかな動きに気づかなければ、生き埋めという恐ろしい事を、平然と私はしたであろう。息子のことばどおり、死んだと思いこみ、冬眠に入った動物をあやうく殺していたかも知れない。理科の教師でありながら、まったくはずかしい限りである。医学では体温を下げて手術をするのに苦労しているが、動物は何百年も昔から、しかも何ヵ月も体温を下げる術を備えている。かれらの能力にはおそれいるばかりである。

(大阪市立蒲生中学校教諭)

なきごえ2月号もくじ

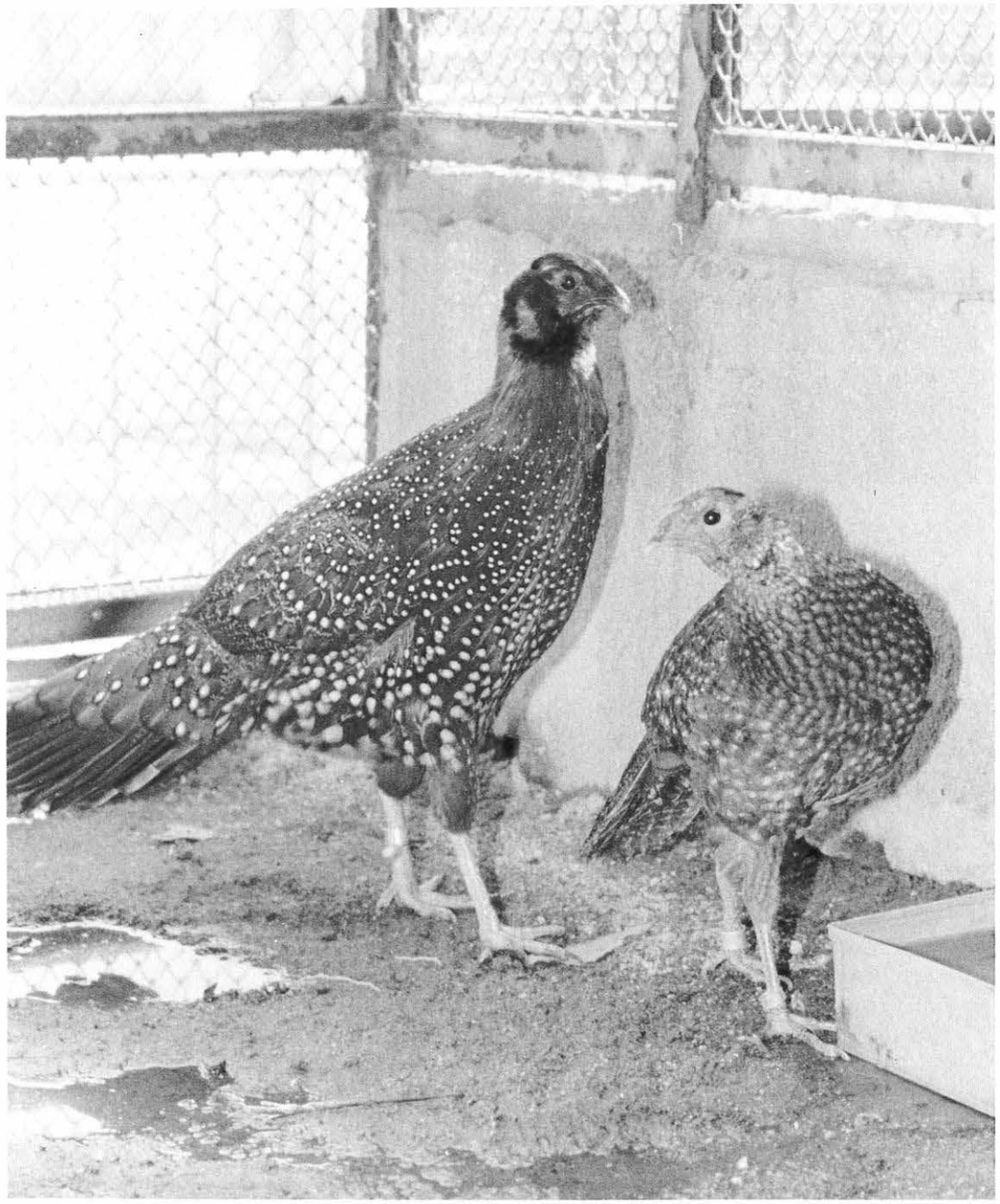
動物と私 ……2
…… 3
動物園グラフ・動物園日記 …… 4･5
ニホンカモシカの保護と食害防除 …… 6･7
天王寺の動物たち …… 8･9
北米通信員だよりを終えて …… 10
動物園ニュース …… 11

表紙の写真説明

“ローランドゴリラ”　ラリちゃん

最近、流行中の歌にもでてくる評判のかわいいメスゴリラです。今年も冬の寒さに負けず元気一杯です。

(撮影：大野　尊信)



“ヒオドシジュケイ、お目見え”

昨年11月30日、ヒオドシジュケイ一番いが来園しました。5種あるジュケイのなかでも最も美しいもののひとつです。ヒマラヤ地方に分布し、ベニジュケイによく似ていますが、朱味の強い羽毛をしています。今春の繁殖が楽しみです。

(撮影：榊原　安昭)

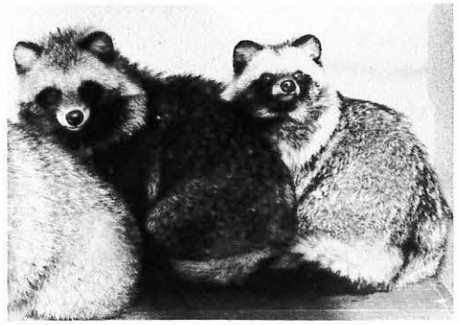
動物園グラフ

“イヌ科動物”特集

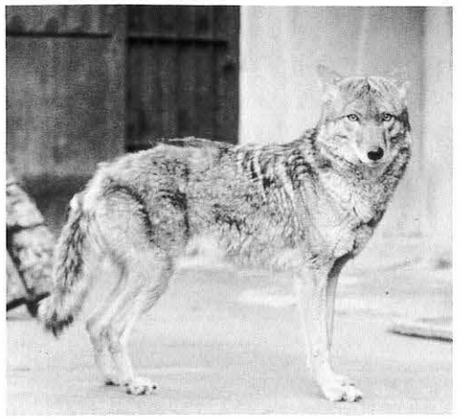
今年のエトはイヌですが、オオカミやコヨーテはもちろんイヌ科の動物ですが、それ以外にキツネやタヌキもイヌ科の仲間に入ります。今回は当園で飼育しているイヌ科の動物を紹介しましょう。

（撮影：農本　武志）

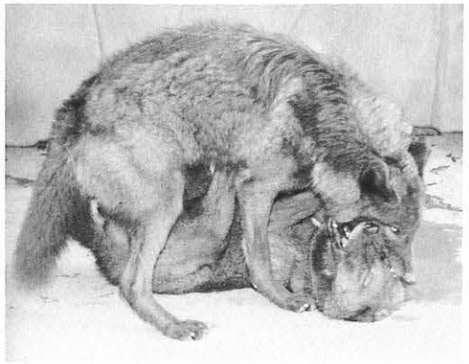
シンリンオオカミ
ヨーロッパ、北アメリカ、カナダ、アジアに、広く生息する大型のオオカミです。群で獲物を捕り、そのチームワークは、すばらしく、又夫婦や家族の間のきずなはとても強いと言われています。



タ ヌ キ
日本と中国、シベリアに生息している愛きょうのある動物です。



コヨーテ
別名ソウゲンオオカミと呼ばれており北アメリカ、カナダに生息しています。



クロオオカミ
昨年の10月31日に、上海動物園より贈られました。中国に生息していますが生息数が少なく貴重なオオカミです。
（じゃれているところです）

ジャッカル
インドからアフリカ北部に生息する小型のオオカミで、一見キツネに似ています。

ドール
中央アジア、インド、マレー半島に生息し、性質は荒く、獲物をどこまでも追い続けるという、大変な耐久力を持っています。

キタキツネ
北海道に生息しており、映画の「キタキツネ物語」で、大変な人気者になりました。

12・1月の動物園日記

12／21．アカカンガルーの人工哺育が良好です。

12／22．保護で元気を回復したフクロウの雌１羽が餌付け・検疫も完了しフクロウ舎に展示されることになりました。
コヨーテの老雌が若雌に咬傷をうけたので入院、治療することになりました。

12／23．堺市で捕獲されたタヌキを１頭、保護することになりました。
キリンの受胎判定テストを行ないました。

12／25．動物病院の学生実習が本日より始まりました。今冬期の実習生は男子２名です。

12／28．今年６月生まれのアシカの子２頭の体重測定を行いました。雄は18.5kg、雌は19.0kgでした。

12／29．エミューが今期８卵目を産みました。

12／31．イワトビペンギンが１個産卵しました。

１／１．クロオオカミ舎前に〆縄飾りを行ないました。

１／２．エトに因む犬のおもちゃ展が開幕しました。
横浜市野毛山動物園より繁殖を目的として借用したドール３頭の展示を開始しました。

１／３．ヤマシギを１羽保護しました。

１／５．アビシニアライオンに交尾がみられました。
ホッキョクグマの雌・ユキコの右ひざ皮膚が穿孔、出血があったので、すぐ治療を始めました。
アカカンガルーの雄が顔面腫脹し、起立不能になったので、隔離し治療を行ないました。

１／６．昨日より治療中のアカカンガルーが、治療のかいもなく死亡しました。

１／７．学生実習が本日で終了しました。

１／11．昨年生まれたコブハクチョウの雄のヒナが父親に追われるため、コクチョウ側の池に隔離しました。

１／12．エミューが10卵目を産みました。
イワトビペンギンが２卵目を産みました。
香港オーシャンパークのDr. ハモンド氏が来園、見学されました。

１／13．水禽放養舎のタンチョウ６羽をコウノトリ舎に移動、コウノトリ２羽と同居させることになりました。

１／18．アジルテナガザルの雌が頭に裂傷を負ったので入院させ、治療を開始しました。

ニホンカモシカの保護と食害防除

井塚英樹

みなさん、ニホンカモシカという動物を知っていますか。ニホンカモシカはその名前からシカの一種と思われたり、アフリカのインパラのようなスマートなカモシカのイメージで想像されたりしがちですが、実際はヤギやヒツジに近い動物で、深い毛におおわれ、ずんぐりとしています。このニホンカモシカは日本だけに生息しており、原始的な姿をとどめた珍らしい動物でもあります。

しかし、昔からニホンカモシカはその毛皮、肉、角などが高く売れるため、狩りの獲物として多く獲られてきました。そのため生息数は減る一方で、放っておいては絶滅しかねないという状況にまでおいつめられたため、国は昭和30年に特別天然記念物に指定し、特別の許可なくして捕獲することを禁止しました。昭和30年の特別天然記念物指定当時、ニホンカモシカは全国でも3000頭ぐらいしかいないだろうといわれ、ニホンカモシカはまさに奥深い山に住む珍獣となったわけです。

このように、ニホンカモシカは山で仕事をする人々でさえめったにお目にかかれない、まして一般の人々にとってはまったくなじみの薄い動物になったのですが、昭和50年頃から突如としてこのニホンカモシカが新聞などでとりあげられ出したため、多くの人々に知られるようになりました。しかし、このとき話題にあがったニホンカモシカはかってのような珍獣としてではなく、農林産物を食い荒らす害獣としてとりあげられたのでした。

ほんの20年ほど前には絶滅が心配されていたニホンカモシカが、どうしてこのような社会的に問題となるほどの害をもたらすようになったのでしょうか。それについてはいろいろな意見が出されています。「特別天然記念物に指定され捕獲されなくなったため、生息数が増え山奥だけでは生活できなくなり、山を降りてきた。山を降りたところには植林地や農地が広がっており、苗木や農作物を食べるようになった」という人があれば他方では「急激な森林開発がニホンカモシカのすむ奥山にまで及んだため生活の場が乱され、やむなく山を降りてきた。そして植林地や農地でエサをあさるようになった」という人もあります。どちらの意見が正しいのかということは、まだニホンカモシカには知られていない部分が多くあるため、はっきりとしたことはいえないのですが、まだ森林開発が山の奥の方へ進んでいくにつれ、ニホンカモシカの食害が発生しはじめたという経緯から林業とのかかわりあいが強いように思われるのです。

しかし、たとえ食害発生の背景に無理な森林開発があったとしても林業関係者を責めるだけではこの問題は解決しないのです。現実に進行する食害をなんとかくい止めなければならないのです。そうした中で国は昭和54年にひとつの対策案をうち出しました。それは特別保護区を設け、その区域内では保護するが、区域外では射殺による間引きを認めるというものでした。しかし、この案はニホンカモシカに一方的に犠牲をしいることによって食害をなくそうとするものであり、害が出たなら殺せ式の安直な考え方によるものといえるでしょう。このような考え方で野生動物に対処していたのでは、いずれは日本から野生動物はいなくなってしまうことでしょう。

本当に考えなければならないのは、どうすれば殺さずに食害を防ぐことができるかということなのです。つまり、林業経営が成り立ち、かつ、ニホンカモシカも生活していける、そういう道をさぐることなのです。このような考えから保護を主張する人たちによって、いろいろな食害防除の方法が研究されました。植林地のまわりに柵を張りめぐらせたり、苗木にニホンカモシカのきらいな臭いのする液体をぬりつけたり、苗木にポリエチレン製の網袋をかぶせたりというような方法が考え出されました。

しかし、どの方法においても問題となるのは人手不足のため、これらの作業をする人がいないということです。手間ひまのかかるこれらの作業が敬遠されるのも無理はないのですが、せっかくよい方法があるのに人手不足のためにそれができず、安易に鉄砲で射ち殺すという方法に走るのでは、あまりに努力が足りないのではないでしょうか。地元でこれらの作業をする人が集められないのなら、都会から集めてくればよいのです。都会にも自然を守りたい、動物を守りたいと思っている人はたくさんいます。自然保護を考える人とニホンカモシカの食害に苦しむ人とが力を合わせれば、きっと食害は防げるはずです。

このような考え方の中から生まれたのが、「カモシカ食害防除学生隊」です。私たちは実際に山に入って食害防除の作業を手伝いながら、ニホンカモシカの問題と林業の問題を考えていこうとしています。ふだん都会で生活している者がいきなり山に入って作業をするというのは、なかなか勇気のいることでもあります。しかし、自然保護を頭で考えるだけではなく、実際に自然保護のためになにかをしたいと思っている人も多くいます。私たちの活動もそういった人たちによって支えられているわけです。

私たちは現在、滋賀県と長野県で主としてポリエチレン製の網袋（食害防除カバー）による食害防除を進めています。食害防除カバーの作業はいたって楽で簡単なので、女性でも十分できます。むしろ女性のほうが作業能率が高いという実験結果も出ているくらいです。

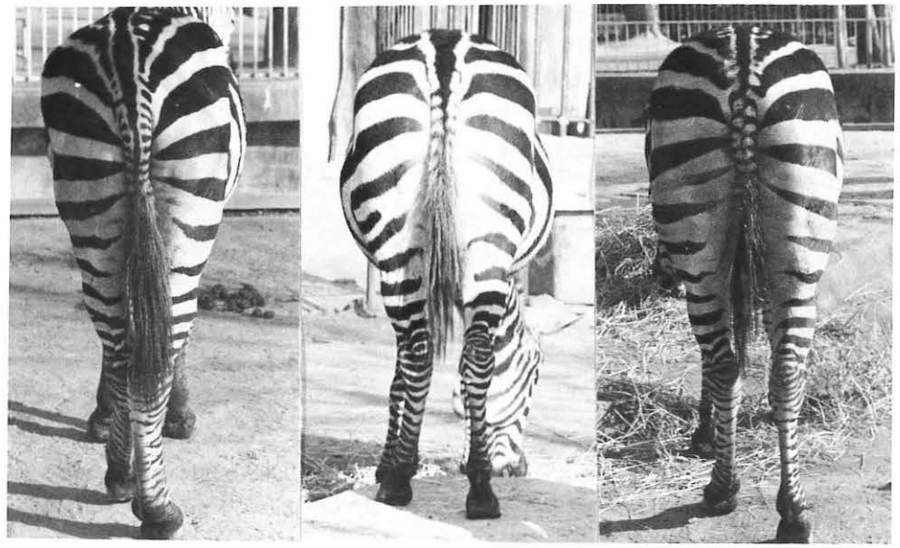
食害防除カバーは秋に苗木一本一本にかぶせていき、冬はカバーをかぶせたままにしておきます。ニホンカモシカの食害は冬の間に集中して起ります。だから冬の間だけカバーをかぶせておけばいいわけです。冬の間は苗木も成長しないのでカバーをかぶせておいても成長を阻害することはありません。そして、春になるとカバーをはずします。そうすれば夏の間苗木は十分成長します。この作業を３～４年間繰り返し行なうのです。３～４年もすれば苗木もニホンカモシカの背が届かないぐらいにまで成長するので、もうカバーをかぶせる必要はないわけです。

私たちの活動は、このような非常に地味な作業のつみ重ねです。しかも私たちが作業している面積はニホンカモシカによる総被害面積のうちのごくわずかでしかありません。しかし、たとえ今は小規模でも食害防除の効果を証明していけば、食害防除への取りくみはもっと活発になっていくだろうと思っています。私たちの活動が食害防除普及のきっかけになれば本当にうれしいことです。

私たちの活動のねらいは射殺という最悪の手段によらず、なんとか殺さずに食害問題を解決することにあります。しかし、私たちの行っている食害防除カバーにしろ、柵にしろ食害防除というのはニホンカモシカから、今まで食べていたエサをとりあげてしまうことでもあるのです。そんなことをしてニホンカモシカを守ることになるのか、というふうに思う人もいるかもしれませんが、なにもせずに放っておいたら射殺されてしまうことうことを考えてほしいのです。ニホンカモシカがかわいそうだ、殺すな、というだけではなにも解決しないのです。今必要なのは人間に害を与える動物を殺すのは仕方ないことだという考え方を改めることなのです。（カモシカの会関西支部）

天王寺の動物たち ㉛

グラントシマウマ（上）



失礼。（左からラッキー、キャンディー、レディー）

§　はじめに

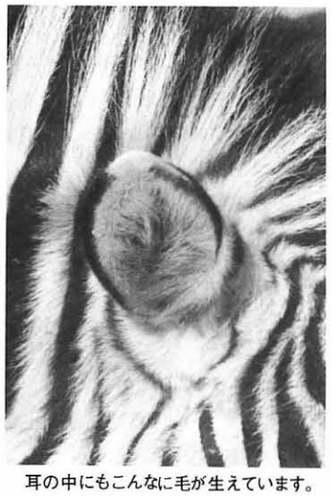
大草原に何万と群がり草をはむ動物達。テレビの動物もののタイトルバックで一番使われるカットではないでしょうか。その中でもひときわ目立つのが派手な白黒のシマ模様をしたシマウマでしょう。あのシマ模様はタテ縞なのでしょうか、それともヨコ縞なのでしょうか？　それにシマウマは黒地に白いシマがある動物なのでしょうか、それとも白地に黒いシマがあるのでしょうか？

今月はこんな疑問が湧いてくるシマウマについてお話ししようと思います。

§　シマウマの体

シマウマの先祖は7000万年位前、北米で発生しました。この先祖はエオヒップスと呼ばれています。この頃は体も犬ほどの動物だったのですが、体も大きく足も早くなる方向にどんどん進化して行きました。そして指先、特に中指の先だけで体重を支え、走るという具合になりました。スピードは時速60km以上は出せます。その中指の先には爪が変化した蹄がついています。この蹄の中には多くの血管や神経が入っていて大変敏感な触覚器官となっています。ですから夜中でもデコボコの道を平気で歩けるのです。

牛飲馬食という言葉があるようにウマは始終なにかをモグモグと食べています。シマウマも同様なのですが、この為肝臓からの消化液は貯まることなく始終使われます。そこでウマやシマウマには胆汁を貯めるための胆のうがありません。これは他の目（もく）に属するシカでも同様です。つまり馬鹿には胆のうがないのです。



耳の中にもこんなに毛が生えています。

シカなど偶蹄目に属する動物達では胃が4室に分れ、特に第一胃が大きくなってここに多数のバクテリアが住んでいます。このバクテリアが普通の動物には消化できないセルロースなどを分解し、そのバクテリアを消化吸収することによって栄養を得ています。が、シマウマの場合、胃のかわりに盲腸が大変大きくなっていて、偶蹄目の動物における第一胃の役目をしています。

また、シマウマの口先は触ってみると大変柔かになっていますが、これは固いシカやカモシカ類とは正反対です。柔かなだけ神経も敏感です。ですから、シカやカモシカが誤ってお菓子の匂いや味のするビニール袋を食べ胃につまらせて死ぬという事故が多いのに比べるとシマウマではそんな事故はめったにありません。

白地に黒縞？　黒地に白縞？

同じ草を食べる動物の中でも色々な違いがあります。

§　グラントシマウマ

シマウマと一口に言っても3つの種があります。東アフリカの北部に多いグレビーシマウマ、東アフリカから南アフリカ北部まで分布するグラントシマウマの仲間、それに南アフリカの数ヶ所にわずかに生息するヤマシマウマです。天王寺で飼われているのは2番目のグラントシマウマです。このグラントシマウマは日本の動物園では最も普通に見られるシマウマで現在30園で125頭が飼われています。5園で35頭飼われているグレビーや、1園のみで5頭だけ飼われているヤマシマウマから比べると大変多い数になっています。

南アフリカにはかって前半身のみにシマがあり、後半身にはシマが無いという大変珍妙な姿のクアッガと呼ばれるシマウマが居たのですが、肉と皮をとるため殺され続け野生のものは1878年に滅び、飼育下のものも1883年8月12日、オランダのアムステルダム動物園で最後の個体が死んで地球上からすべてのクアッガが姿を消してしまいました。ヒトが生きるためとは言え、大変残念なことです。

直立したタテガミ　きれいに白黒に色分けされています

§　雑種化

天王寺には現在オスで6才のラッキー、メスで8才のレディー、それに同じくメスで3才のキャンディーと3頭のグラントシマウマが飼われていますが、このグラントシマウマの中に混じってグラントシマウマと日本在来のトカラウマの雑種ホーブラも飼われています。これはアカという名のメスで14才です。

アフリカには様々のウマの病気があり家畜のウマの導入が果せませんでした。が、シマウマ達は耐久性があるのかみな元気に暮しています。そこでこのシマウマに眼がつけられ、家畜化する試みが行われました。しかし、頑固でものぐき易いシマウマは家畜にはできませんでした。ではウマとの雑種にすると病気に丈夫で、しかも人が扱い易い動物ができるのではないかと雑種化の努力がなされました。しかし、一代雑種はできても不妊の為子孫ができず、結局この努力も失敗に終りました。ですから今でもアフリカでは病気の無い地方以外にはウマは導入されていません。

アカの後姿。シマウマとは少しちがいます。

さて、紙面が尽きてしまいました。初めにあげたシマの問題の答えはどうなりましたか？
解答は次の回にしたいと思います。

（つづく）

（飼育課　獣医師：長瀬　健二郎）

北米通信員だよりを終えて

過去１年間に９回続いた私の北米通信員だよりも都合で肝心の米国東部と北部の諸園を訪れることができないまま合計13園のレポートで打ち切りとなりました。ささやかな私の見聞でも、私達の動物園の将来にとって、いく分とも役立つことを願って、総括と補足を試みることにします。

まず、比較的歴史が浅いと言われる米国の動物園でもたいそううまくいっているという印象をうけました。そしてその理由が、財力や土地の広さよりもむしろ、スタッフの腕とそれを活かすシステムにこそあることがしだいにわかってきたのでした。第一に米国では動物園のスタッフの大半が大学で動物学を専攻してきた人達でした。誰もが最初は飼育係員をつとめて実地の経験を積み、やがて自分の専門を決めて、その分野で頭角を現わしていきます。ある人達は顕著な実績をあげて哺乳類、鳥類、爬虫類等のキューレーター（課長）の地位を獲得しますが、多くの意欲ある人達はさらに余暇を利用して大学院に通いはじめて生態学や比較行動学などの最新の理論や研究方法などを学び、それをまた飼育に還元しようとしています。その過程で幾多の研究論文も発表され、それがまた周囲への刺激ともなります。

このようなシステムは動物園間での活発な人事交流と相まって、動物園の質的向上に多大の貢献をするもので、実際に全米にあまねくゆきわたっているように見うけられました。ですから園長や飼育課長の地位にある人々には修士号、博士号の所持者も稀ではありません。とはいえ、私のお目にかかったうちで、アトランタ動物園のドッブズ（J.S.Dobbs）園長やサン・アントニオ動物園のディサビト（L.R.Disabito）園長のように共にテキサスの高校を出られた現場育ちの声望高い動物園人もおられ、実績第一の原則は貫かれているようすでした。また、オクラホマ・シティー動物園のカーチス（L.Curtis）氏のように動物学者としてばかりでなく、新しい施設をつくることにも財政的なことを含め手腕を発揮する人もおられます。たとえばこの人は、一昨年、同園に完成したガラパゴス諸島館のみならず、過去にはフォート・ワース動物園その他でも園長としてすぐれた爬虫類館や水族館を残しておられます。それらはもう、芸術作品でした。

他方、わが国ではほとんどの動物園が、獣医師の肩書きを持つ人々と行政を専門とする人達の二人三脚できりまわされていて、肝心の飼育担当者達の経験と、そこからくる高い見識は不思議なことに動物園の運営にあまり活かされていないように見受けられます。飼育の総責任者の位置にある獣医師達は、大学では一部の家畜の衛生管理を学んだばかりで職務に必須の動物学関係の専門知識すら全部独学によらねばなりません。そもそも、経済動物を扱うことで築かれてきた獣医学と、動物園動物の健康管理とは目的が異なるのですから、手段もまた違うべきでしょう。動物園の獣医師は今後、何でも屋さんから、病気にかかった動物の治療のみならず、健康な動物の繁殖生理や疾病の予防衛生により専門化していかねばならないと私は以前にも増して強く思います。

それから今回の主眼目でありました教育事業について述べますと、これは力の入れ具合、進める方向ともに各動物園によってまちまちでした。しかしどこでも、珍獣を入手することにも増して教育事業を重視する姿勢が見られました。動物園でのボランティアの果たす役割は予想以上に大きなもので、それは教育普及事業の目的の一つが、市民と動物園のつながりを一層深めることにあることからすれば至極当然のなりゆきなのでしょう。大阪動物園ボランティアーズの６年間の歩みの中には、米国の同志達から高い評価をうけた点が多々ありました。自然史博物館と協力して実施しているサマー・スクール、動物クイズの方法、動物学的分類に従った会員の班構成などは今後米国でも採用されそうです。ただ、現在のところ、園側の専任教育担当者と活動拠点の不在が惜しまれます。

おわりに、私に１年間の米国留学と米国内の旅行の機会を与えて下さったロータリー財団、私のオクラホマ州立大学在学中に隣町から数々の助言と便宜とを与えて下さった川田健氏に特に厚く感謝の意を申し述べたいと存じます。同氏は現在はウィスコンシン州ミルウォーキー郡立動物園の飼育課長となっておられ、北部の寒さもものとせず、相変らず御活躍のようすであります。　（完）

（大阪動物園ボランティアーズ会員：富樫　史朗）

動物園ニュース

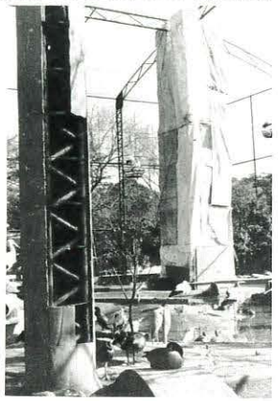
§　**ドール３頭来園!!**

昨年12月28日に、ドール３頭が来園しました。横浜市の野毛山動物園の御好意で、繁殖のための貸し出しという形で借用することになり来園しました。ドールは日本では東京の上野動物園と野毛山動物園に飼われているだけです。

来園した３頭は雄が２頭、雌が１頭でいずれも1980年３月24日に野毛山動物園で生まれ、日本で初めて成育に成功したものです。名前を雄は“アック”“アピー”といい、雌は“アン”といいます。“アック”は一番おとなしく、“アピー”は行動力があり“アン”は人なつっこく、それぞれ性格も少しずつちがうようです。

ドールはインド、東南アジアから中国に分布するイヌ科の動物で、毛はかっ色で、中型のオオカミのような体形をしています。別名をアカオオカミともいいますが、オオカミとは全く別の種類の動物です。

の屋根および擬岩と水禽放養舎の支柱の補修工事が１月12日から始まりました。



水禽放養舎では工事に先立つ14日に、工事中の事故を防ぐため当園で繁殖したタンチョウ６羽を一時コウノトリ舎に移しました。それぞれ動物を収容したままの工事ですので、事故が心配されましたが、特に心配したこともなく順調に工事が進んでいます。

§　**寒波襲来!!**

今年の冬は暖冬で比較的すごしやすい日が続いていたのですが、寒波の襲来した１月17日には、大阪地方でも珍らしく３cmの積雪がありました。動

くらしを彩るショッピング

近鉄百貨店
アベノ店 (06) 624-1111・上本町店 (06) 779-1231
東京近鉄 (0422) 21-3331
・近鉄百貨店グループ
大阪（アベノ・上本町）・東大阪・奈良・京都・岐阜
枚方・四日市・和歌山・徳山・別府・東京（吉祥寺）

北米通信員だよりを終えて

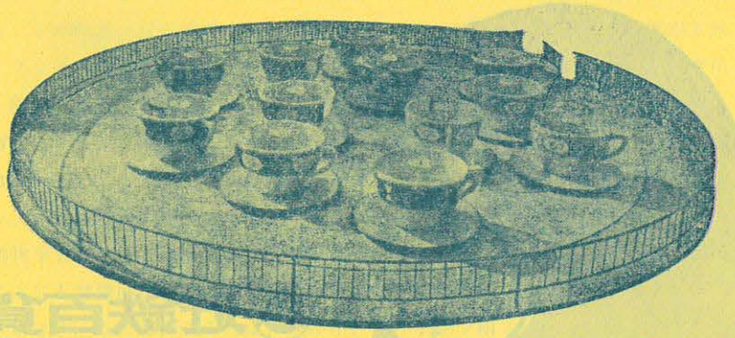
過去１年間に９回続いた私の北米通信員だよりも都合で肝心の米国東部と北部の諸園を訪れることができないまま合計13園のレポートで打ち切りとなりました。ささやかな私の見聞でも、私達の動物園の将来にとって、いく分とも役立つことを願って、総括と補足を試みることにします。

まず、比較的歴史が浅いと言われる米国の動物園でもたいそううまくいっているという印象をうけました。そしてその理由が、財力や土地の広さよりもむしろ、スタッフの腕とそれを活かすシステムにこそあることがしだいにわかってきたのでした。第一に米国では動物園のスタッフの大半が大学で動物学を専攻してきた人達でした。誰もが最初は飼育係員をつとめて実地の経験を積み、やがて自分の専門を決めて、その分野で頭角を現わしていきます。ある人達は顕著な実績をあげて哺乳類、鳥類、爬虫類等のキューレーター（課長）の地位を獲得しますが、多くの意欲ある人達はさらに余暇を利用して大学院に通いはじめて生態学や比較行動学などの最新の理論や研究方法などを学び、それをまた飼育に還元し

他方、わが国ではほとんどの動物園が、獣医師の肩書きを持つ人々と行政を専門とする人達の二人三脚できりまわされていて、肝心の飼育担当者達の経験と、そこからくる高い見識は不思議なことに動物園の運営にあまり活かされていないように見受けられます。飼育の総責任者の位置にある獣医師達は、大学では一部の家畜の衛生管理を学んだばかりで職務に必須の動物学関係の専門知識すら全部独学によらねばなりません。そもそも、経済動物を扱うことで築かれてきた獣医学と、動物園動物の健康管理とは目的が異なるのですから、手段もまた違うべきでしょう。動物園の獣医師は今後、何でも屋さんから、病気にかかった動物の治療のみならず、健康な動物の繁殖生理や疾病の予防衛生により専門化していかねばならないと私は以前にも増して強く思います。

それから今回の主眼目でありました教育事業について述べますと、これは力の入れ具合、進める方向ともに各動物園によってまちまちでした。しかしどこでも、珍獣を入手することにも増して教育事業を重視する姿勢が見られました。動物園でのボランテ

遊園施設委託経営・製作・販売



久竹娯楽株式会社

本社 工場　大阪市西区北堀江1丁目23番21号

電話 大阪(06)541—3112・3938 番

動物園ニュース

§　ドール３頭来園!!

昨年12月28日に、ドール３頭が来園しました。横浜市の野毛山動物園の御好意で、繁殖のための貸し出しという形で借用することになり来園しました。ドールは日本では東京の上野動物園と野毛山動物園に飼われているだけです。

来園した３頭は雄が２頭、雌が１頭でいずれも1980年３月24日に野毛山動物園で生まれ、日本で初めて成育に成功したものです。名前を雄は“アック”“アピー”といい、雌は“アン”といいます。“アック”は一番おとなしく、“アピー”は行動力があり“アン”は人なつっこく、それぞれ性格も少しずつちがうようです。

ドールはインド、東南アジアから中国に分布するイヌ科の動物で、毛はかっ色で、中型のオオカミのような体形をしています。別名をアカオオカミともいいますが、オオカミとは全く別の種類の動物です。

検疫終了後、新年からオオカミ舎の一角で展示されました。犬年にふさわしいドールのお目見えに、入園者の人気を集めています。

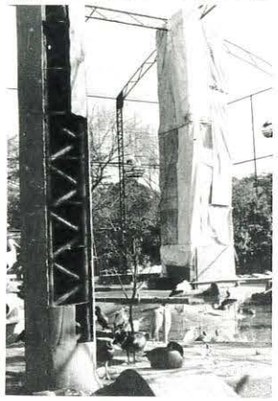
§“犬のおもちゃ展”開催

恒例のエトにちなむ“犬のおもちゃ展”が北園展示館で開催されました。寝屋川市在住の“おもちゃの動物園長”吉田平七郎氏提供による昔なつかしい“犬張子”や奈良県の法華寺の“安産の御守犬”など日本のおもちゃ147点、イギリス、アメリカを始めとする世界22ヶ国66点の他、多数の犬に関する資料が展示されました。

期間中の１月10日には当園のボランティアの例会の講師として吉田氏が来園され、約１時間にわたってそれぞれのおもちゃの解説をしていただきました。

§　サイ舎、水禽放養舎の補修工事始まる

老朽化のため補修の必要がせまられていたサイ舎の屋根および擬岩と水禽放養舎の支柱の補修工事が１月12日から始まりました。



水禽放養舎では工事に先立つ14日に、工事中の事故を防ぐため当園で繁殖したタンチョウ６羽を一時コウノトリ舎に移しました。それぞれ動物を収容したままの工事ですので、事故が心配されましたが、特に心配したこともなく順調に工事が進んでいます。

§　寒波襲来!!

今年の冬は暖冬で比較的すごしやすい日が続いていたのですが、寒波の襲来した１月17日には、大阪地方でも珍らしく３cmの積雪がありました。動物園でも各動物舎がうっすらと雪化粧しました。時ならね積雪に動物たちも少々とまどい気味でしたが、この雪も来園者の訪れる10時頃には、ほとんどとけてしまいました。

この先も寒波は続くことでしょうが、寒さに弱い動物もこの冬を無事に乗り切ってほしいものです。

◈　休園日のお知らせ　◈

動物園の休園日は毎月第３月曜日です。５月までの休園日は下記のとおりです。

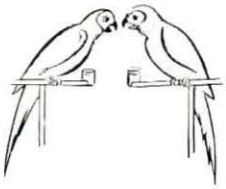
２月15日(月)、３月15日(月)、４月19日(月)、５月17日(月)

開園時間は９時半～５時で、４時に切符売止めになります。

⊙現在の飼育動物数（1981年12月31日　現在）

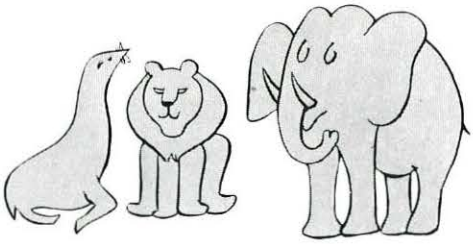
哺乳類	102種	355点
鳥類	227種	792点
爬虫類	45種	100点
計	374種	1247点

なきごえ　昭和57年２月15日発行（毎月１回15日発行）　第18巻 第２号（通巻 198 号）
編　集／大阪市天王寺動物園
発行人／大阪市天王寺動物園協会　中川道朗
印刷所／株式会社　松村善進堂　定価100円（送料共）
〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74
電話　大阪　(06)　７７１－０２０１
振替口座　大　阪　３７８２３
１年継続（12部）1,100円（送料共）



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達



・医学実験用動物
・愛玩犬、猫直輸入
・宣伝用、テレビ用、貸動物
・教材用鳥獣剥製販売
・原色世界雑類図鑑（34種１枚もの）要郵便券150円・鳥獣価格表100円

有限会社　**吉　川　商　会**

本　社　神戸市生田区中山手通三丁目二八番地　電話（078）221-8195・221-1517
飼育場　神戸市葺合区神仙寺通三丁目一番地　電話（078）241-3494

自然の
おいしさ

全糖

●合成甘味料・合成保存料・合成糊料・合成着色料はいっさい含まれていません。

雪印ヨグール

パイン・オレンジ・ストロベリー・フルーツカクテル

各130c.c.＝90円

編集委員　橋本　一郎・土井　良彦・樽本　勲・中川　哲男・宮下　実・長瀬健二郎・榊原　安昭・森本　委利・大野　尊信
葭谷　文彦・農本　武志・野口　秀高・仲谷　登・高橋　真三・板野　健一・石島　宏胤・柴田　総